

Soto / 凜

TAKE FREE

ご自由にお持ち
帰りください

涼やかにいこう！

RIN

vol.27

特集

大本山
永平寺へ

ほとけのことば

B*phrase



©Taka

自分を苦しめず、
また他人を害しないことばのみを語れ。
これこそ実に善く説かれたことばなのである。

ブツダ

出典 | 「スッタニパータ」

..... 凜 27号 [編集・発行]

曹洞宗近畿管区教化センター・曹洞宗近畿管区布教教化推進会議 <http://www.soto-kinki.net>

〒652-0805 兵庫県神戸市兵庫区羽坂通2丁目1 八王寺内 TEL 078-579-8480 FAX 078-579-8481 ✉center@soto-kinki.net

Special Thanks / 大本山 永平寺 編集協力 / 五木のどか



はつとう 法堂

修行僧や参禅者が朝のおつとめをしたり、法話をお聞きしたりする伽藍。この階段を登った先、永平寺で最も高いところに位置する。山紫水明の森閑とした世界に朝陽を招く緊張感のある空間。

お寺にお参りし、坐禅を体験したり写経を書いたりするうちに、「いつの日か永平寺に行ってみよう」と念願するようになりまし。七年、八年、機は熟し、大本山 永平寺へ。

深い山の中の急な斜面に建立された永平寺の七堂伽藍は、広々として清らかで深い緑色に包み込まれるようでした。建物が人を育み、山々が建物を包む。自然と一体化する道場で、若い修行僧が黙々と己の任に励まれる姿は、外界から訪れた者たちの心を浄め、背筋を伸ばさせてくれました。

永平寺は福井県吉田郡の山間部にあります。1244年に京都からこの地に招かれた高祖 道元禅師は、お釈迦さまの教えを伝える坐禅修行の道場として永平寺を開きました。

1321年、道元禅師の教えを継承した太祖 瑩山禅師けいざんぜんじが石川県の能登に總持寺(現・總持寺祖院)を開かれ、曹洞宗の教えを広める起点となりました。その後、明治時代に神奈川県横浜市に移転しました。

大本山 永平寺と大本山 總持寺は、曹洞宗の両大本山として共に在ります。(總持寺については、機を改めて紹介します)

永平寺の階段は一段の段差が低く、幅の広い板が延々と続く印象を受けた。

特集

大本山 永平寺へ

二〇二〇年〜二〇二二年と、感染症の影響で社会全体が厚い雲の中を進んでいるような日々が続いています。いつ終わりが見えるとも知れないこの時期をどう乗り切るか、小さな光が、少しでも皆さまの御心に灯ることを願ってこの特集を組みました。



唐門

1 傘松閣『絵天井の間』▶

昭和5年に描かれた230枚の色彩画が美しく天井を彩る。獅子2匹、りす1匹、鯉2匹を見つけたら、良いことがあると話題になっている。



2 山門を守る四天王 ▶

修行僧がこの門をくぐるのは、上山と下山のときだけ。山門から入ってくる修行の妨げとなるものに、四天王が睨みをきかす。



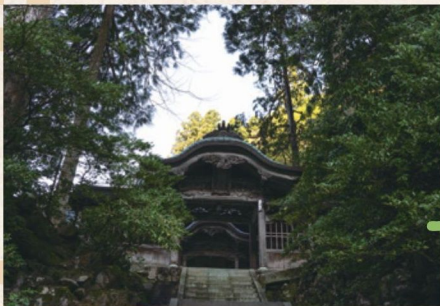
3 承陽殿を拝し ▶

法堂の奥にある道元禪師 御廟正面の景色。「承陽」には、仏法を承け伝えるという意味がある。曹洞宗発祥の根源であり、聖地として大切にされている。



4 中雀門と前庭 ▶

唐門・山門の先にある門。4月、ようやく梅がほころび始め、修行僧は土嚢運び、式典の用意をされていた。



承陽門

永平寺全系図



- 龍門 ▶ 手水舎 ▶ 通用門 ▶ 吉祥閣 ▶ 傘松閣 ▶ 山門 ▶ 庫院 ▶
- 法堂 ▶ 承陽殿 ▶ 仏殿 ▶ 祠堂殿 ▶ 吉祥閣 ▶ 瑠璃聖宝閣

永平寺
七堂伽藍に
お参り



【大本山 永平寺への拝観】

時間／8:30～16:30
拝観料／大人500円、小中学生200円
ほか／坐禅、納経、御朱印などご希望の際は別途お納めください。
※新型コロナウイルス感染症の影響で、制限が出ることもあります。事前に永平寺ホームページ等で要確認

永平寺の広い敷地内には大小七十余りの建物があります。その中で、法堂・仏殿・僧堂・庫院・山門・東司・浴司の主要な建物を「七堂伽藍」と呼びます。
拝観に訪れると、見学コースに沿って長い回廊を歩き、深山幽谷の中にある永平寺建築の見事な伽藍に身をおくことができます。
畳敷の板の間、室内の中央部や隅に正座していると、連綿と続いていた悠久の時間、いまここに在る自分、たくさんのご縁に生かされている有り難さを感じ、煩雑な日常が遠のくようでした。



9 五代杉 ▲

およそ700年前に、五世 義雲禅師が植えたとされる杉。雪深い永平寺では、樹木の年輪が密になり太い幹には育たない。枝は雪の重みで下向きに伸びる。



7 大すりこぎ棒 ▲

庫院の韋駄天さまを祀る廊下側に掲げられ、「身をけずり 人に尽くさん すりこぎの その味 知れる人ぞ尊し」の歌が教えるように、食事を作ってくださいる方の尊さがわかる人でありたい、と伝わる。



6 庫院 ▲

修行僧の食事を作る台所。典座寮とも呼ばれ、正面には「馳走」の語源となった韋駄天さまが祀られている。



8 常香盤 ▲

いにしえより、24時間かけて燃え尽きる香を焚き、燃焼具合で時を知らせてきた。絶やさず受け継ぐ精神を表わす。



5 仏殿の内部 ▲

中央にお釈迦さまが祀られ、欄間にはお釈迦さまから最初に弟子の摩訶迦葉に仏法が伝えられる様子が彫られている。右隣には禅宗の開祖 達磨祖師に弟子入りを志願する慧可が、肘を切断して本気の覚悟を示す姿が描かれている。岩崎弥太郎氏の寄贈により、1902年に改築。天井まで11mの吹抜けで、お経をあげる声が響きやすい。



すべてに意味がある

〜 禅の教えを全身にあびながら

永平寺では百五十人ほどの修行僧がいくつかの役割に分かれ、毎日の修行と役務を行われています。視界に届く彼らは寡黙に立ち働き、挨拶すると短く返してくださいました。

「僧侶として生きていくことそのものが修行で、修行に終わりなし」。その言葉は修行僧としての生き方のみならず、俗世間に生きる私たちにも当てはまるように思います。

心の中まで見なくても、その行いにその人が現れると言います。人を傷つけない言動を意識して、少しでも周りの人のため、社会のためになることを心において、自分の行いを修めていくことを大切にしたいものです。

チチチ、ピピピ、薄暮の中に溶け



10 御朱印と瓦志納 ▲

いずれも吉祥閣1階で手続きする。御朱印は参拝や見学の最初をお願いしておくのがおすすめ。雪深い永平寺の瓦は傷みやすく、多くの修復が必要なため、費用を募られている。一口千円から。禅の冊子や数珠などをいただいた。

ゆくような心地で坐禅をしているときに感じた「人は一人で生まれ、一人去っていく大河の一滴」という感覚。グリーン、澄み切った空気の中に長い余韻を残し消えていく梵鐘の響き。生きやすい世の中になるようにと心を尽くすことを繰り返しながら、「また永平寺に来よう」と大本山を後にしました。



■ 朝課(朝のおつとめ)

早朝まだ暗いうちから行われる修行僧の朝課。季節や日によって始まる時間が異なります。(40分前に受付に集合し、法堂へ移動。法話～読経で約1時間)参加希望は、前日迄に電話申込してください。
受付TEL 0776-63-3102

※坐禅、朝課ともに、一般申込可能です。私たちは最寄りのお宿「柏樹閣」に滞在し、禅コンシェルジュの案内により参加しました。

四月初旬、午後三時半の回に坐りました。参禅者、十数人の中には関東から家族で来られた方々も。結迦^{けつか}跌坐^{ふざ}、半^{はん}迦^か跌坐^{ふざ}、椅子坐禅、それぞれ可能な方法で壁を向いて坐ります。
感染症対策で開放された坐禅堂の窓の向こうから、絶え間なく流れる川の源流の音や、枝葉がそよぐ音、鳥の声、虫の音などが届きます。坐禅終了の鐘が鳴るまでひとときの、心しずまる経験でした。

◎修行僧の朝のおつとめを間近に
朝未明、紺色の空が薄すらと白み始める頃、永平寺から徒歩五分のお宿「柏樹閣^{はくじゅかく}」を出て、大本山 永平寺へ。
四月というのに、まだ雪が残る敷地内。一階の待合にも朝を告げる振鈴^{はるとう}が響きます。永平寺で最も高いところにある法堂^{はつどう}まで、二十名ほどが連なつて長い階段を上りました。
四百二十畳の広い堂内に整然と坐る修行僧。焚かれたお香と、お経を唱える低い声が厳かに全身を包み、「ああ、これこそサンガ」と実感。読経が深閑と澄んだ空気を起こし、永平寺の一日を連れてくるのだと思いました。
参禅者も経本を目で追いながら、共に経文を声にします。修行僧と禅心を求める者たちの魂が共鳴し、この地から全国へ道元禅師の教えが伝えられていくのだと胸が熱くなりました。

Daihonzan Eiheiji

■ 永平寺での坐禅体験

時間/①10:00~ ②13:30~ ③15:30~
※いずれも約1時間
恩 金/1人1回 500円
※参拝可能日は、毎日開催されています。参加希望の場合、前日迄に電話申込してください。
TEL 0776-63-3102



サンガをたずねて

参禅会探訪

大本山で坐禅し、朝課に参加する喜び

大本山 永平寺^{えいへいじ}
【福井県吉田郡】

◎ 一日三回の坐禅体験

永平寺は、道元禅師が坐禅修行の道場として二二四四年に開かれたお寺です。それから七十七年、曹洞宗の僧侶を志す幾百幾千の修行僧が坐禅を組み、参禅に訪れた人々が坐つてきました。これまで日本各地のみならず、世界の国々から「永平寺」を目指す人々が大本山で坐ることを思い、足を運んできました。坐禅体験は、年齢性別・国籍・宗派を問わず、誰でも参加することが出来ます。長く坐禅をしてきた人も、まだ日の浅い人も、若い修行僧の手ほどきを受け、一緒に坐ります。



手間をかけて作る喜び、
みどり色のご馳走

枝豆とうふ



- 材 料**
(作りやすい分量目安)
- 枝豆(さやを含む) ……500g
 - 調製豆乳 ……200cc
 - 昆布出汁 ……200cc
 - 葛 ……100～150g
 - ※全体積の1/5
 - (つるんとした食感は葛少なめ、
しっかり固めたいときは多めに)
 - 塩 ……少々

作り方

- ① 枝豆を茹でて、さやから取り出し、薄皮をはく。
- ② 鍋に調製豆乳、昆布出汁、①を入れて火を通す。
- ③ ②の粗熱がとれたらミキサーにかけ、塩少々を加えて味を調える。
- ④ ③を鍋に戻し、葛を加えてよく溶かす。中火にかけ、混ぜながら温める。
- ⑤ 粘りが出てきたら弱火にして、滑らかになるまで5～10分ほどかき混ぜる。
- ⑥ 耐熱容器に入れ、粗熱がとれたら冷蔵庫で冷ます。
- ⑦ 容器から出し、切り分けて皿に盛り付ける。

前山老師 談

精進料理の真髄は、何を食べるかではなく、
どう食べるかにあります。
野菜や穀物にも命が宿ることを思い、
命を余すことなくいただくことを
心掛けたいものです。

その他、精進レシピは Web にて
⇒ <http://www.soto-kinki.net/dish/recipe.php>

“ 喜心・老心・大心「三心」 ”

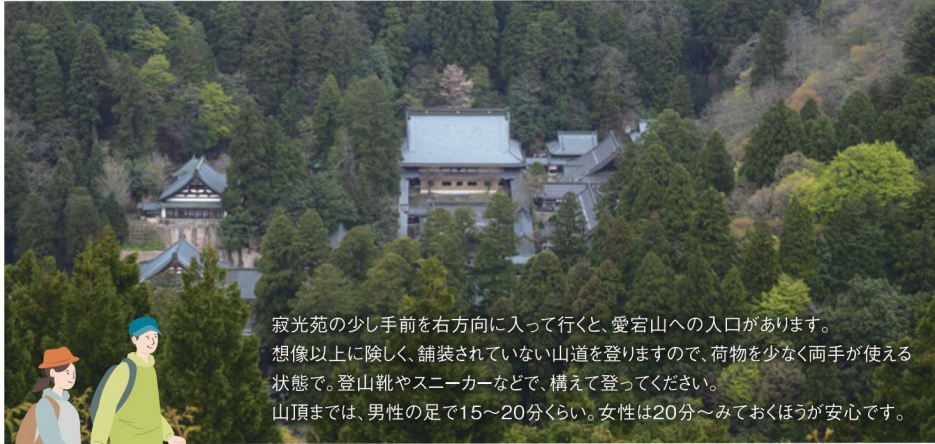
人様のために思い喜びの気持ちで、両親が子どもを慈しむように、片寄ることなく大きな心で調理すること。調理はもとより生き方の心得として、道元禪師は「典座教訓」に説かれています。



今回の先生
【福井県吉田郡】
大本山 永平寺
典座
まなやま ぶんしん
前山 文伸さん



1975年、群馬県館林市に生まれる。永平寺 大庫院で修行したのち、地元を中心に精進料理を教える。2019年5月、永平寺 侍真に就任。2020年7月より典座に転役。善長寺 住職を兼任する。



寂光苑の少し手前を右方向に入っていくと、愛宕山への入口があります。想像以上に陰しく、舗装されていない山道を登りますので、荷物を少なく両手を使える状態で。登山靴やスニーカーなどで、構えて登ってください。山頂までは、男性の足で15~20分くらい。女性は20分~みておくほうが安心です。



永平寺を望む愛宕山登山

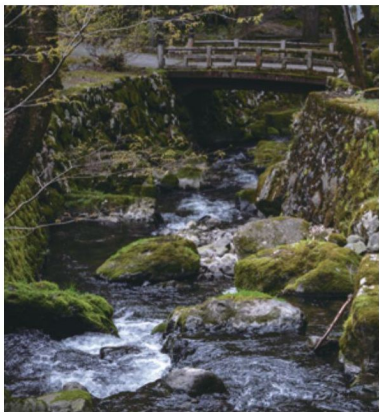


聖観音菩薩



千手観音菩薩

▲しおりの景色に憧れて
永平寺にお参りする際に、拝観料を納めた際にいただいたしおり、その表紙には樹木に包まれる境内を斜め上から見た全景が表されています。「おそらくあの景色が拝めるはず!」と思って、隣接する愛宕山に登ってみました。出くわす人は少ないのですが、この山は修行僧も、九月には法要を行うために登ります。



山野草の隙間から山肌がのぞき、木の根っこや、落ち葉で覆われる丸太階段を踏み締め、一步一步山頂を目指します。途中いくつもの仏像が祀られ、永平寺と町の人々を見守る山として大切にされていることを思いました。中腹の護国観音堂、山頂の愛宕観音堂あたりから望む七堂伽藍に、感慨ひとしおです。清々しい心もちで手を合わせる私たちに、山桜が微笑みかけているようでした。



永平寺の通用門を入らず、永平寺川沿いの小道を真っ直ぐ5分ほど進むと、『寂光苑』があります。道元禅師のお墓は、その最も奥まったところにあります。

道元禅師のお墓に おまいり

禅の里 永平寺町を歩く



vol.27



永平寺におまいりする際に、忘れずに足を運んで欲しいのが寂光苑です。境内の外、少し歩いたところに道元禅師と永平寺の歴代住職のお墓、お骨を納めた御堂があります。小川のせせらぎ、岩壁を伝い落ちる清水、澄んだ空気と樹木の呼吸する気配が感じられるエリアを歩いていると、心がしずまり、意識が研ぎ澄まされていくのがわかります。道元禅師がまだ子どもの頃、仏門に進むため出家を志した姿とされる『稚

髪御像』や、道元禅師の師匠である如浄禅師を祀る塔も見られます。木立の奥に進むと、御堂があります。この地に永平寺を開かれた道元禅師と、心の会話を交わすような気持ちで、手を合わせてみてはいかがでしょう。

敷地内に設けられた『寂照の鐘』は、参拝に訪れた人が自由に撞くことができます。周囲の山々、森にゴーンと広がる鐘の響きに、永平寺に訪れていることを、いま一度実感しました。



寂照の鐘

永平寺町を歩く



永平寺の門前はかつて川を隔て、大工村と百姓村に分かれて発展しました。社寺造作に携わり腕を磨いた人々と、山林や畑作・寺の雑務を担う人々。

昨今の門前町は、おみやげ通りとして賑わっています。



門前町では、すりこぎ羊羹・永平寺そば・ごまどうふ・地酒などのおみやげや、福井名物のソースかつ丼なども。

■アクセス

福井県吉田郡永平寺町

●JR福井駅から京福バス「特急 永平寺ライナー」乗車、所要時間30分で永平寺門前に着きます。

●中部縦貫自動車道「永平寺山道IC」から約5km、公共の駐車場あり



永平寺の門前町から寂光苑あたりまで、道元禅師の御歌を刻む歌碑が九つ。私たちも歩いてみると、八つの歌に廻り会えました。

門前町で見つかる歌碑。道端、小さな公園内、商店の敷地内、宿の一角など、意識して探さないと気づかないくらい、道元禅師の歌碑は町の景色に溶け込んでいます。永平寺町が「禅のふる里」として、人々の心に浸透していることと似ているように思いました。

いくつかの歌碑には、その意味も表されていますので、時間をとって歩いてみてください。



ヒント

R364添い 永平寺町観光案内所横に掲げられた「永平寺門前 ガイドマップ」に歌碑マークが記されています。

道元禅師の歌碑をめぐり、永平寺町を散策



永平寺の最も近くにある、旅館と宿坊の良さを兼ね備えた宿。禅ライブライリー、大浴場を併設。2019年開業。



玄関を入った正面に掛かる魚鼓(ほう)は、大本山 永平寺で食事の合図に使われていたものを譲り受けた。



畳敷の「開也の間」では、禅コンシェルジュに作法を教わりながら坐禅をすることができる。



※禅コンシェルジュは、永平寺で禅の研修を受け、認定された方だけが名乗ることを許され、唯一、柏樹閣にのみ存在します。

精進コース料理も見事でした。

親禅の宿 柏樹閣では、永平寺の行事都合等で坐禅や写経ができない日も、館内で柔軟に体験ができます(感染状況、宿泊人数等により例外あり)。

永平寺の前典座老師より指導を受けた精進料理。禅の心を大切に、工夫を凝らし、素材を余すところなく使い切る

調整してください。

親禅の宿 柏樹閣では、永平寺の行事都合等で坐禅や写経ができない日も、館内で柔軟に体験ができます(感染状況、宿泊人数等により例外あり)。

永平寺の前典座老師より指導を受けた精進料理。禅の心を大切に、工夫を凝らし、素材を余すところなく使い切る

禅コンシェルジュに導かれ

大本山 永平寺で朝課に参加しよう

と思うと、一般人にはかなりの覚悟が必要かもしれません。寝過ぎさないよう気を配り、夜明け前から行動を共にし、宿から永平寺受付へ法堂までをガイドしてくださる禅コンシェルジュさん。修行僧と俗世間に暮らす人々の、感覚の違いを調整してください。



支配人の岸義仁さん。「年に1回訪れて、不摂生を改めるという楽しみ方も。自分自身、デトックスになっています」と。大本山に赴く緊張感も、事前に気さくにお話を聞くことで安心して参加できる。

はくじゅかん 親禅の宿 柏樹閣

福井県吉田郡永平寺町志比6-1 (永平寺まで徒歩5分)

TEL 0776-63-1188



「お食事処 水仙」大平料理長が腕ふるう精進料理。福井の旬の食材を用いた、品数豊富な愛でる料理の数々。正に、ごちそう精進料理のフルコース。



▲京の特等席、百練の川床。席料ナシも◎



▲店主。酒場ライターのバックー井上さん。

17:00~23:00(川床シーズンは15:00~、土日祝は昼も営業) 無休
京都市中京区先斗町三条下ル・歌舞練場南隣 TEL 075-255-4755

鴨の川床で…

涼

のある風景

5

Kyoto

京都市
京阪三条駅徒歩五分

先斗町

百練

ゆく川の流れば絶えずして、しかももとの水にあらず。五月、禊川みそぎがわに高床が生まれ、三条大橋や鴨川を望む先斗町の夏が始まります。百練の川床からは、川辺に等間隔に座るカップルや、THE KYOTOを絵に描いたような見事な夕景が拝めます。

いい風が吹くのです。落差工にかかる水の調べと賑わいをBGMに、水茄子や鮎の塩焼き、ハモ天などが生ビールをおいしくします。ああ、京の夏の風物詩とも言われる営みは、いつの時代から続いてきたのでしょうか。

人集い、呑んで、食べて、笑い、情を交わす。京を愛する世界中の人々の歓びを叶えるため、先斗町 百練の床はこの夏も健やかに営業しています。

こんな御時世ではありますが、やっぱり京都は京都らしく。今は昔と笑える日がきたら、足をお運びください。

*近くに「HAPPY STAND KYOTO」、「メシと酒 百練」、「京漬物 錦・高倉屋」など姉妹店も。



So Good!

File.17

ボーズコレクション

HONDA SHUSHI



恋愛成就

◎おいらはドラマー♪
兄が三世の住職で、本人は副住職。昭和晩年生まれ、四人姉弟の末っ子は幼少期より家業を手伝いながら育ち、迷うことなく仏門に入りました。

永平寺卒業から六年、前住職の父、住職を務める兄と共に、龍光寺を守り立てます。大阪市東成区、本堂から高速道路が間近に見える賑やかな地に暮らす、柔和なお坊さまのお話です。

龍光寺 副住職

本田 秀之さん

Profile

1987年8月1日生まれ
獅子座・A型・独身
大阪経済大学人間科学部で学び、永平寺へ。3年間の修行を経て、生家の龍光寺に入る。
趣味は音楽鑑賞。好物はカレーとラーメン。

天外山 龍光寺(りゅうこうじ)
大阪市東成区深江北3-2-16
TEL 06-6981-2257

◎平成育ち、令和に花咲かす
ゆとり世代初期に学び、中学の頃からひっそりとドラムを習い、学生時代はバンド活動に入れ込んだことも。ジャズやヒップホップを好み、石若駿さんの演奏に惹かれ、今でもドラムセットを大切にしています。

おごらず、波風たてず、誠実で穏やか。おそらく彼は「能ある鷹」です。ゆつたりと時間をかけて、お近づきになるのがヨロシイかと存じます。

あなたのもとへ「凧」をお届けします。毎号続けて読んでみたいと思われる方は、
読者登録をしてください。(無料)

① 曹洞宗近畿管区教化センターのホームページから登録

<http://www.soto-kinki.net>

② ハガキ又はFAXにて「氏名・住所」を明記の上、
お申込みください。

〒652-0805
兵庫県神戸市兵庫区羽坂通2丁目1 八王寺内
曹洞宗近畿管区教化センター 行
FAX 078-579-8481



「SOTO 凧」は、近畿の曹洞宗寺院の一部と、下記の協力先に置かせていただいています。

協力先リスト 詳しい情報はWEBに掲載しています。

- 【滋賀】 美富久酒造
- 【京都】 香老舗 松榮堂 | 青おにぎり | 座布団専門店 一疋屋 | 京都裏寺 百練 | 先斗町 百練 | 立ち飲み食堂 賀花
食堂バッキー&BAR KIYO | 京つけもの 錦・高倉屋 | 一風堂 京都ポルタ店 | 版画 芸艸堂
和のコスメ kyo・miori | 谷口法衣佛具店 | ペットショップ ピーターパン | エイト珈琲店 | いづつ
beeDream | coffeestand Blackie | お食事処・飲み処 風景 | 靴修理 凧靴 | 美容室 LAN
ペット同伴可能な和カフェ らん布袋 | 松本明慶美術館(休館中) | 薬局 ふやき 本店 | カラダ整骨院
豆乳パティシエの店 むしやしない | 書店 誠光堂 | 古本・レコード・CD 100000tアローンココ
読書喫茶 HiFi Cafe | 亀岡 理容 コンシロ | モハン | うつわのお店 若葉屋 | ホホホ座 | 恵文社
六曜社珈琲店 | ごはんや xizakaya YURURI | めんや 龍神 | リノベーション Sign
フランス菓子 オハヨービスケット | 京とうふ 並河商店 | ギャラリー空間のレストラン Lucky ☆ You Kyoto
とうふ・お揚げ 堤食品
- 【大阪】 人生図書館 | 一風堂 梅田店・堀江店・高槻店・池田店・箕面店・長堀店
博多純系豚骨らーめん まんかい 福島本家・天満橋店
- 【兵庫】 一風堂 三宮店・姫路店・西宮北口店 | 焼き鳥 えんじや | 加圧スタジオ トップラン 加古川店
手打ち蕎麦 しこう庵 | 黒石歯科医院 | お好み焼 ピース | PRO SHOP DIVERSION
浜屋 加古川店 | 新興自動車 | 元湯 龍泉閣 | あい骨盤整骨院
- 【奈良】 カフェ&おちゃづけビアホール 風神 近鉄五位堂店 | 個室焼肉 小風神 香芝五位堂店
居間焼肉 百薬 登美ヶ丘店 | すき焼きと牛めし ももしき
- 【和歌山】 喫茶 羅漢 | エステルーム FLASH | きらくゆ 和歌山店
- 【福井】 永平寺 親禅の宿 柏樹閣 | 永平寺門前 井の上 | 永平寺町観光案内所
- 【石川】 茜屋 珈琲茶房 【神奈川】 不識庵 【愛知】 メイオンドー
- 【福岡】 洋菓子店 ニノカニーノ | 不動産管理 フロムK 【熊本】 不動産仲介 トオルプランニング



坐
禅
こ
こ
ろ
み
寺

滋賀県	長松院	彦根市中央町4-29 TEL 0749-24-3225 毎月第1土曜日 14時～ 毎月第3日曜日 6時～ 毎月最終金曜日 19時～ 一般参加 可 / 参加費 無料
京都府	慈眼寺	京都市上京区出水通七本松東入七番町358 TEL 075-462-0186 毎月第1日曜日 14時～ 一般参加 可 / 参加費 無料
大阪府	自性院	池田市渋谷3-17-11 TEL 072-752-5584 毎月第3日曜日 午前6時30分～午前7時30分 一般参加 可 / 参加費 無料
奈良県	景德寺	吉野郡上北山村大字河合136 TEL 07468-2-0052 一般参加 可 / 参加費 無料 希望があれば随時行います。ご予約をお願いします。
和歌山県	西福寺	和歌山市小雑賀89 TEL 073-422-0308 毎月第1、第3土曜日 19時～21時 一般参加 可 / 参加費 無料
兵庫県	長和寺	篠山市曾地中1801 TEL 079-556-3290 毎月20日、21日、22日 8時～20時のうち良い時間をご予約ください。 一般参加 可 / 参加費 無料

★ 坐禅会、写経会ともに事前に各寺院へお問い合わせ頂くと確実です。(開催日が変更になることがあります。)



写
経
こ
こ
ろ
み
寺

滋賀県	青岸寺	米原市米原669 TEL 0749-52-0463 日程は随時、お電話にて予約をお願いします。 一般参加 可 / 参加費 700円
京都府	頼光寺	福知山市字川北547 TEL 0773-22-4892 毎月第3日曜日 14時～16時 一般参加 可 / 参加費 300円
大阪府	臨南寺	大阪市東住吉区長居公園1-32 TEL 06-6691-1493 毎月20日(8月お休み) 10時～15時 一般参加 可 / 参加費 1000円 昨今の状況により休会の場合もありますので、事前にお問い合わせください。
奈良県	南陽寺	磯城郡川西町吐田499 TEL 0745-43-1459 日程は随時、お電話にてお問い合わせください。 参加費 納経料として500～1000円程度。坐禅会もやっています。
和歌山県	靈巖寺	東牟婁郡古座川町高池993 TEL 0735-72-1880 毎月第3日曜日(原則として) 13時～14時30分 一般参加 可 / 参加費 100円
兵庫県	雲覚寺	川辺郡猪名川町広根字宮前12 TEL 0727-66-0050 毎月第2月曜日 13時～15時 一般参加 可 / 参加費 500円